## ６．むすび

地震調査研究推進本部（以下、「地震本部」という。）では、平成 17 年８月に策定した「今後の重点的調査観測について（―活断層で発生する地震及び海溝型地震を対象とした重点的調査観測、活断層の今後の基盤的調査観測の進め方―）」に基づき、活断層帯の重点的な調査観測を推進している。さらに、地震本部では、平成 21 年４月に策定し、平成 25 年３月に改訂した「新たな活断層調査について」において、必要とされる活断層調査に関する基本方針や実施方法等についてとりまとめるとともに、重点的調査観測の対象候補となる活断層帯を明記している。この選定基準に該当する森本・富樫断層帯（以下，本断層帯）の重点的な調査観測（以下、本調査観測）を令和４年度から開始した。

本調査観測では、対象断層帯の長期評価、強震動評価の課題を踏まえ、本断層帯における地震規模及び長期的な発生時期の予測精度の高度化、周辺断層帯との関係、断層帯周辺における地殻活動の現状把握の高度化、強震動の予測精度の高度化等を目指している。このため、本調査観測では、１）活断層の詳細位置・形状・活動性及び周辺の地下構造解明のための調査として、１．１）活断層の詳細位置・形状・活動性解明のための調査、と、１．２）重力探査に基づく地下構造調査、２）断層帯周辺の地殻活動の現状把握調査、３）浅部・深部統合地盤構造モデルの構築と強震動予測として、３．１）浅部地盤構造モデルの構築、３．２）深部地盤構造モデルの構築と強震動予測、の５つのサブテーマ研究グループを構築して、調査観測を進めるとともに、これらの活断層調査の実施に際して、関係自治体等と連携を図るとともに、調査観測成果を地域へ普及・還元する観点から、４）地域連携・地域の内在地震ハザード情報共有、のサブテーマを設定した。

第２年度にあたる令和５年度は、初年度（令和４年度）に引き続き、各研究サブテーマにおいて調査観測を計画・実行し、令和５年度報告書としてとりまとめた。最終年度にあたる令和６年度においては、各サブテーマの調査観測成果をサブテーマ間で情報共有して各サブテーマの成果をまとめるとともに、本断層帯の長期評価と強震動評価の高度化に資する調査成果を取り纏めていく予定である。

最後になりましたが、令和５年度の本調査観測を行うにあたり、令和４年度と同様に、調査対象地域である石川県、富山県等の関連機関の皆様には調査観測の実施、地域勉強会等に関してご協力いただきました。また現地調査では地権者の皆様にも便宜を図っていただきました。ここに記して深謝申し上げるとともに、引き続きのご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和２年末より能登半島北東部で活発な地震活動が継続し、令和５年度には５月５日にマグニチュード 6.5 の地震により震度６強を計測した珠洲市をはじめとする地域で地震被害が発生し、さらには令和６年１月１日にマグニチュード 7.6 の大地震が奥能登地域を襲い、多くの死者や建物倒壊を引き起こすとともに、石川県、富山県、新潟県など震源域から遠い地域においても地盤の液状化災害といった甚大な被害を引き起こしました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われ、少しずつではあるものの復興は進んでおりますが、未だ不自由な生活を強いられている方々に深くお見舞い申し上げます。